

## ⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭57-24077

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>  
B 42 F 13/20

識別記号

庁内整理番号  
6547-2C

④ 公開 昭和57年(1982)2月8日

審査請求 未請求

(全 2 頁)

## ⑭ 綴込具

東京都北区豊島 6-10-12 株式  
会社トンボ鉛筆内

② 実 願 昭55-102122

⑦ 出 願 人 株式会社トンボ鉛筆

② 出 願 昭55(1980)7月18日

東京都北区豊島 6-10-12

⑦ 考 案 者 田村達吉

⑦ 代 理 人 弁理士 早川政名 外 1 名

## ⑮ 実用新案登録請求の範囲

基板に脱着可能な綴板にてこを軸着けすると共に、ばねを取付け、このばねをてこの軸着部下側における綴板表面に配し、てこの軸着部と、ばねとの間に可動綴杆の基部を配すると共に、この基部の一部を綴板に枢着せしめて起立させ、可動綴杆と同数の不動綴杆を綴板に立設して可動綴杆に対峙せしめ、不動綴杆に脱着可能な紙押板の裏側に不動綴杆挟圧用の複数本の弾条を平行に具備せしめると共に、紙押板の表側には弾条押上げ操作

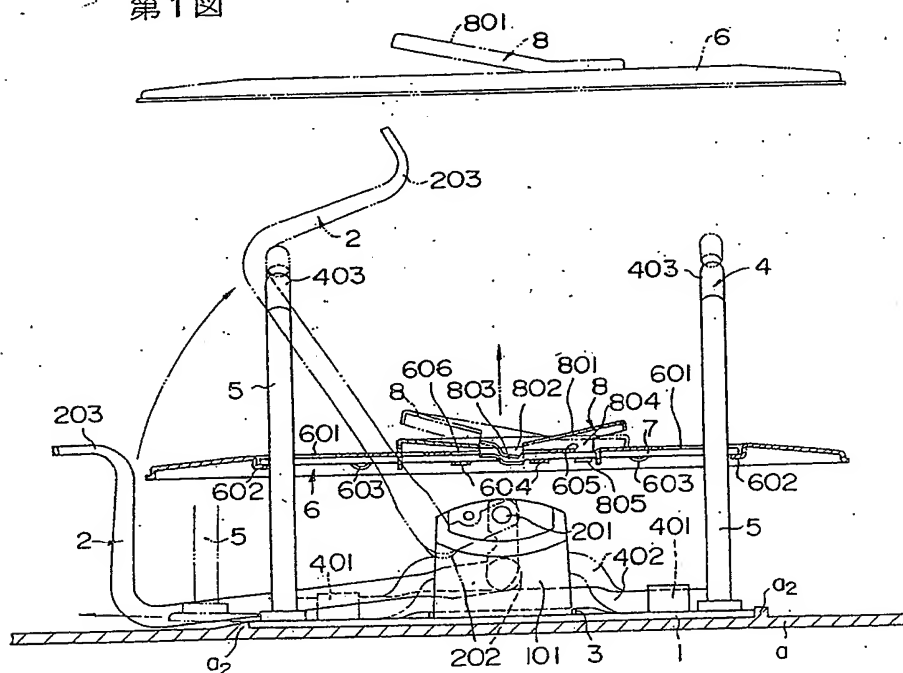
の操作子を設けた綴込具。

図面の簡単な説明

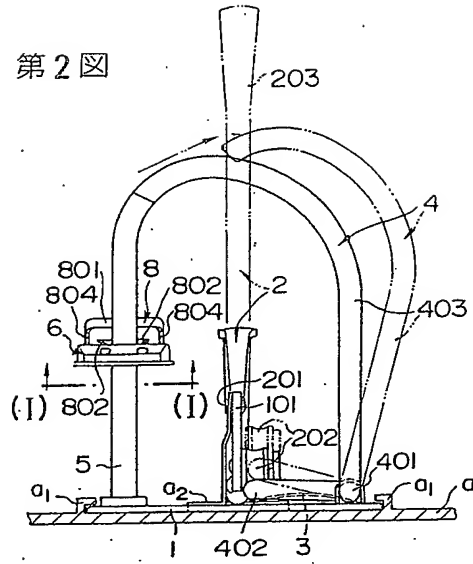
第 1 図は本考案綴込具の一部縦断正面図、第 2 図は側面図、第 3 図は平面図、第 4 図は第 2 図の I-I 線による横断面図、第 5 図は綴板の基板に対する脱着操作説明図である。

図中、a は基板、1 は綴板、2 はてこ、201 はてこの軸着部、3 はばね、4 は可動綴杆、401 は可動綴杆の基部、5 は不動綴杆、6 は紙押板、7 は複数本の弾条、8 は操作子である。

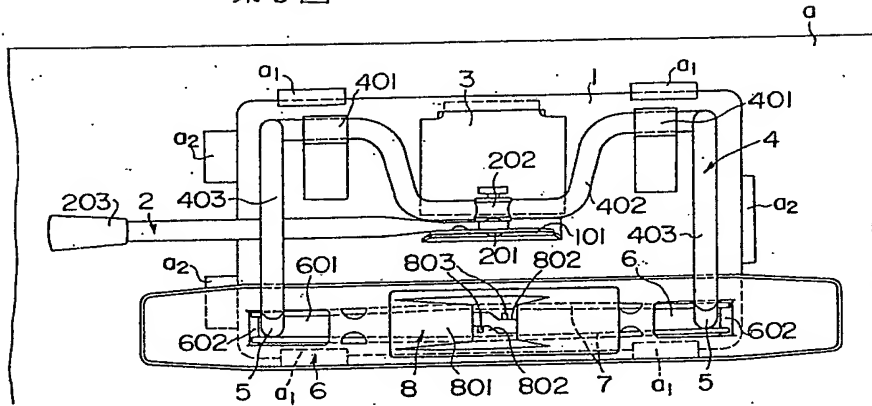
第 1 図



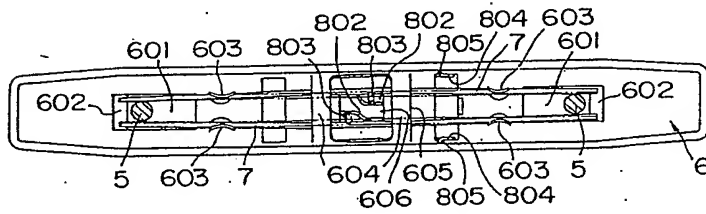
第2図



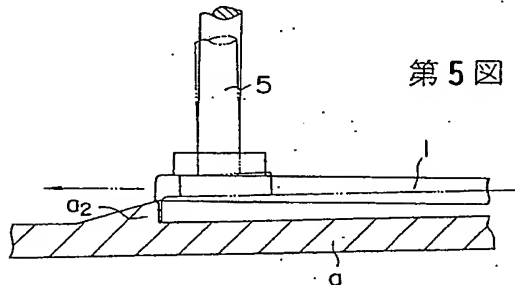
第3図



第4図



第5図





(4,000円)

実用新案登録願

昭和 55 年 7 月 18 日

特許庁長官 川 原 能 雄 殿

1. 考案の名称  
ツツリ コミ グ  
機 込 具

2. 考 案 者  
住 所 東京都 <sup>キタクトシマ</sup> 北区豊島 6 - 10 - 12  
株式会社 <sup>エンピツ</sup> トンボ鉛筆 内  
氏 名 <sup>タ</sup>田 <sup>ムラ</sup>村 <sup>タツ</sup>達 <sup>キチ</sup>吉

3. 実用新案登録出願人  
住 所 東京都 <sup>キタクトシマ</sup> 北区豊島 6 - 10 - 12  
名 称 株式会社 <sup>エンピツ</sup> トンボ鉛筆  
代表者 <sup>オ</sup>小 <sup>カ</sup>川 <sup>コウ</sup>浩 <sup>ヘイ</sup>平

4. 代 理 人

住 所 東京都文京区白山5丁目14番7号  
早川ビル 電話東京(03)0531番(代表)

氏 名 (6860) 弁理士 早 川 政 名  
(外 1 名)

5. 添付書類の目録

- |              |     |
|--------------|-----|
| (1) 委 任 状    | 1 通 |
| (2) 明 細 書    | 1 通 |
| (3) 図 面      | 1 通 |
| (4) 願 書 副 本  | 1 通 |
| (5) 出願書登録請求書 | 1 通 |

55 10212

24077

11字削除

## 明 細 書

### 1. 考案の名称

綴 込 具

### 2. 実用新案登録請求の範囲

基板に脱着可能な綴板にてこを軸着けすると共に、ばねを取付け、このばねをてこの軸着部下側における綴板表面に配し、てこの軸着部と、ばねとの間に可動綴杆の基部を配すると共に、この基部の一部を綴板に枢着せしめて起立させ、可動綴杆と同数の不動綴杆を綴板に立設して可動綴杆に対峙せしめ、不動綴杆に脱着可能な紙押板の裏側に不動綴杆挟圧用の複数本の弾条を平行に具備せしめると共に、紙押板の表側には弾条押拡げ操作用の操作子を設けた綴込具。

### 3. 考案の詳細な説明

本考案は、帳票類、メモ類、その他の紙葉、製本されたノート類などの綴込用綴込具に関し、可動綴杆の操作をてこの操作で楽に行ない得、綴込んだものは簡単に抜けず、かつ必要に応じては、

綴込用部材が備えられた綴板を表紙、その他の基板に、簡単に脱着せしめ得る使用に便利な綴込具の提供を目的とする。

実施の一例を図面で説明すれば、基板(a)は、綴込表紙などで周知の表紙、用箋挟みなどで周知の台板、その他綴込具装備用の基板である。この基板(a)には、綴板(1)を脱着せしめるための断面「型係合片(a<sub>1</sub>)(a<sub>1</sub>)…を適数設けると共に、綴板(1)の装備位置決定用の突壁(a<sub>2</sub>)(a<sub>2</sub>)…を適数突設する。係合片(a<sub>1</sub>)(a<sub>1</sub>)…と突壁(a<sub>2</sub>)(a<sub>2</sub>)…との配列関係は、第1図、第2図、第3図等を示す如く、綴板(1)の非脱着方向側に係合片(a<sub>1</sub>)(a<sub>1</sub>)…が平行に対向配置され、この係合片と直角をなす位置に突壁(a<sub>2</sub>)(a<sub>2</sub>)…が平行に対向配置され、第1図で左側に配置された片方の突壁(a<sub>2</sub>)を乗り越えて綴板(1)を脱着せしめ、この綴板を反対側の突壁(a<sub>2</sub>)に当接せしめて装備位置を決定すると共に、係合片(a<sub>1</sub>)(a<sub>1</sub>)…に係合せしめて基板(a)に装備する。

綴板(1)のほぼ中央に立設した軸着部(101)には、こ(2)の片端を軸着し、てこ(2)の軸着部(201)

下側における緩板(1)の表面にばね(3)を設け、てこ(2)の軸着部(201)近くに設けたローラー(202)で、可動緩杆(4)の基部(402)を介してばね(3)を下方へ弾圧し、軸着部(201)の周りにてこ(2)を回動操作してばね(3)の弾圧を解放しえるように構成する。てこ(2)の軸着部(201)と、ばね(3)との間には、可動緩杆(4)の基部(401),(402)を配し、かつその一部の基部(401)を緩板(1)に枢着せしめ、枢着していない部分の基部(402)をてこ(2)のローラー(202)で下方へ押し、ばね(3)とで挟圧し、てこ(2)の上記回動操作で、ばね(3)の弾発力で可動緩杆(4)の基部(402)が弾かれ、この緩杆が緩板(1)との枢着部(401)(401)を中心にして回動し、不動緩杆(5)から離れるように構成する。緩板(1)には不動緩杆(5)を立設するが、この緩杆は可動緩杆(4)と同数であって、対峙配置され、その末端には可動緩杆(4)の末端が当接したり、離れたりする。

てこ(2)は、第1図に示すように正面「」型に曲成した杆体の先端を緩板(1)の軸着用板(101)に軸着し、この軸着部(201)近くにおける屈曲辺にロ

ーラー(202)を軸着し、このローラーを可動緩杆(4)の基部(402)上面に当接せしめ、先端と反対側の端部は操作しやすい形状に曲成して操作辺(203)を構成する。

かくして、てこ(2)を第1図、第2図に示す如く軸着部(201)を中心にして回動せしめると、ローラー(202)が可動緩杆(4)の基部(402)上を転動し、同時にばね(3)が可動緩杆(4)の基部(402)を弾くように構成し、ローラー(202)によっててこ(2)を軽い力で楽に操作しえるように構成する。

ばね(3)は板ばねの例を図示したが、このばねの先端を可動緩杆(4)の基部(402)下側に配して常時上方へ向けて弾圧接せしめ、基端は緩板(1)に取外可能に固定せしめ、てこ(2)の回動操作で基部(402)を上方へ弾き、緩板(1)との枢着部(401)(401)を中心にして可動緩杆(4)を回動せしめ、不動緩杆(5)から離すように構成する。

なお、ばね(3)の先端は、緩板(1)の表面におけるてこ(2)の軸着部(201)下側に配されると共に、可動緩杆(4)の基部(402)下側に配される。

ばね(3)がコイルばねの場合は、弾発方向が上方となるように、緩板(1)の表面におけるてこ(2)の軸着部(201)下側に配すと共に、可動緩杆(4)の基部(402)下側に配し、適当な手段で一端を緩板(1)に固定する。

可動緩杆(4)は、一本の杆体で構成するが、基部(401)、(402)は第3図に示す如く平面「」型に曲成し、両側を緩板(1)に枢着して枢着部(401)(401)とし、中央部は緩板(1)に枢着しないで、てこ(2)のローラー(202)が上面に当接すると共に、ばね(3)の先端が下面に弾圧接する部分(402)とする。そして、枢着部(401)(401)の両側方は、第2図に示す如く上方へ起立し、上部を不動緩杆(5)の方向へ彎曲せしめ、側面は逆J字形に形成して一対の彎曲杆(403)(403)を構成する。従って、可動緩杆(4)は、一部の基部(401)が緩板(1)に枢着されて枢着部(401)(401)を構成し、枢着されていない基部(402)が、てこ(2)のローラー(202)とばね(3)とで挟圧されているをもって、てこ(2)の回動操作で、枢着部(401)(401)を中心として回動し、





彎曲杆(403)(403)の末端が不動緩杆(5)の末端と当接したり、離れたりする。

不動緩杆(5)は、可動緩杆(4)と同数であり、詳しくは、可動緩杆(4)の彎曲杆(403)(403)と同数が緩板(1)に立設され、その彎曲杆と対峙配置され、上方の末端が少しく可動緩杆(4)方向へ彎曲され、第2図の如くほぼ逆J字状に構成される。

紙押板(6)は、不動緩杆(5)に通すための通孔(601)をもち、裏側には複数本の弾条(7)が平行に具備され、この弾条で不動緩杆(5)を挟圧するように構成される。そして、紙押板(6)の表側には複数本の平行な弾条(7)の中央を押拡げるための操作子(8)を具備せしめ、この操作子の操作で上記弾条(7)の中央が押拡げられると、両端近くで不動緩杆(5)を挟圧し、挟圧位置で固定されるように構成する。

複数本の弾条(7)は、紙押板(6)の裏側に取り付けられるが、その取り付け構造は、紙押板(6)に開穿された通孔(601)の孔縁に支承片(602)を形成し、この支承片は該孔縁において紙押板(6)の両端に近い裏側に形成せしめ、複数本の弾条(7)の両端を表側

で平行に支承させ、紙押板(6)の裏側へ突出せしめた平行な爪(603)(603)…の対向面に複数本の弾条(7)を当接せしめて平行状態を保持せしめ、このように平行に備えられた複数本の弾条(7)が、紙押板(6)から脱落することを防ぐため、紙押板(6)の裏側にブリッジ状の支持片(604)を構成する。

紙押板(6)の表側に備える弾条押拵げ操作用の操作子(8)は、第1図、第2図、第3図に示す如く紙押板(6)の表側に配置する操作片(801)の片側を上向に傾斜せしめて断面  形に成形し、その長手両側縁の対向位置には、第1図、第2図、第3図、第4図に示す如く中心線に向って傾斜せる側面逆  字状の操作縁(802)を突設し、この操作縁には裏側へ突出せる縦向の突条(803)を突設し、この操作縁を紙押板(6)の操作孔(606)に通して前記弾条(7)間にも通し、さらに、操作片(801)の上向傾斜側の両側縁対向位置には、紙押板(6)の係合孔(605)に係合する係合片(804)を下向に形成し、この係合片に設けた係合突起(805)を紙押板(6)の係合孔(605)孔縁の裏側に係合せしめ、この係合し

た係合突起(805)を支点として、操作子(8)の両端をシーソーのように上下動せしめ、この上下動操作で操作縁(802)及び突条(803)を同時に上下動させ、この操作縁及び突条の上下動によって複数本の平行な弾条(7)を押払けたり、平行な原形に復帰せしめたりする。

操作子(8)の操作を第1図、第2図、第3図、第4図で説明すると、第1図の実線で示す状態は、操作片(801)の上向傾斜側が押されて、第3図、第4図に示す如く操作縁(802)及び突条(803)が、複数本の平行な弾条(7)間に介入し、押払け、その弾条の両端近くで不動縦杆(5)を挟圧し、第1図、第2図に示すように紙押板(6)を或る高さ位置に固定せしめた状態である。そして、操作片(801)の反対側を押すと、係合突起(805)を支点として、上向傾斜側が上動し、この上動に伴なって操作縁(802)及び突条(803)は該弾条間から脱出し、該弾条は第4図で2点鎖線に示す平行な原形に復帰すると共に、不動縦杆(5)の挟圧を解除し、紙押板(6)を移動或いは脱着可能な状態ならしめる。

本考案は叙上のように、基板に脱着可能な緩板にてこを軸着けすると共に、ばねを取付け、このばねをてこの軸着部下側における緩板表面に配し、てこの軸着部と、ばねとの間に可動緩杆の基部を配すると共に、この基部の一部を緩板に枢着せしめて起立させたから、必要に応じて緩板を基板に脱着せしめ、それらを交換使用しえて、使用に便利にすることができる効果、てこは軸着部を中心にして回動操作すると、ばねの弾発力で可動緩杆の基部が弾かれ、その基部は緩板との枢着部を中心にして回動することとなり、従って、軽い力でてこを回動操作するだけで、可動緩杆を楽に回動せしめ得て、可動緩杆の操作が楽になる効果を奏する。そして、可動緩杆と同数の不動緩杆を緩板に立設して可動緩杆に対峙せしめ、不動緩杆に脱着可能な紙押板の裏側に不動緩杆挟圧用の複数本の弾条を平行に具備せしめると共に、紙押板の表側には弾条押拵け操作用の操作子を設けたから、可動緩杆は、前記回動により、対峙せる不動緩杆と当接したり、離れたりし、当接時は緩込まれた被

綴込物が抜けることを防ぎ、離れた時は被綴込物を容易に抜取り得る状態にする効果を奏し、不動綴杆に脱着する紙押板は、操作子の操作で複数本の弾条が不動綴杆を挟圧或いは解放して、所定の高さに固定し得る効果と、簡単に抜取り得る効果とを奏し、紙押板が不動綴杆に固定されると、これに綴込まれた被綴込物の綴込み状態を確保しえる効果を奏する。

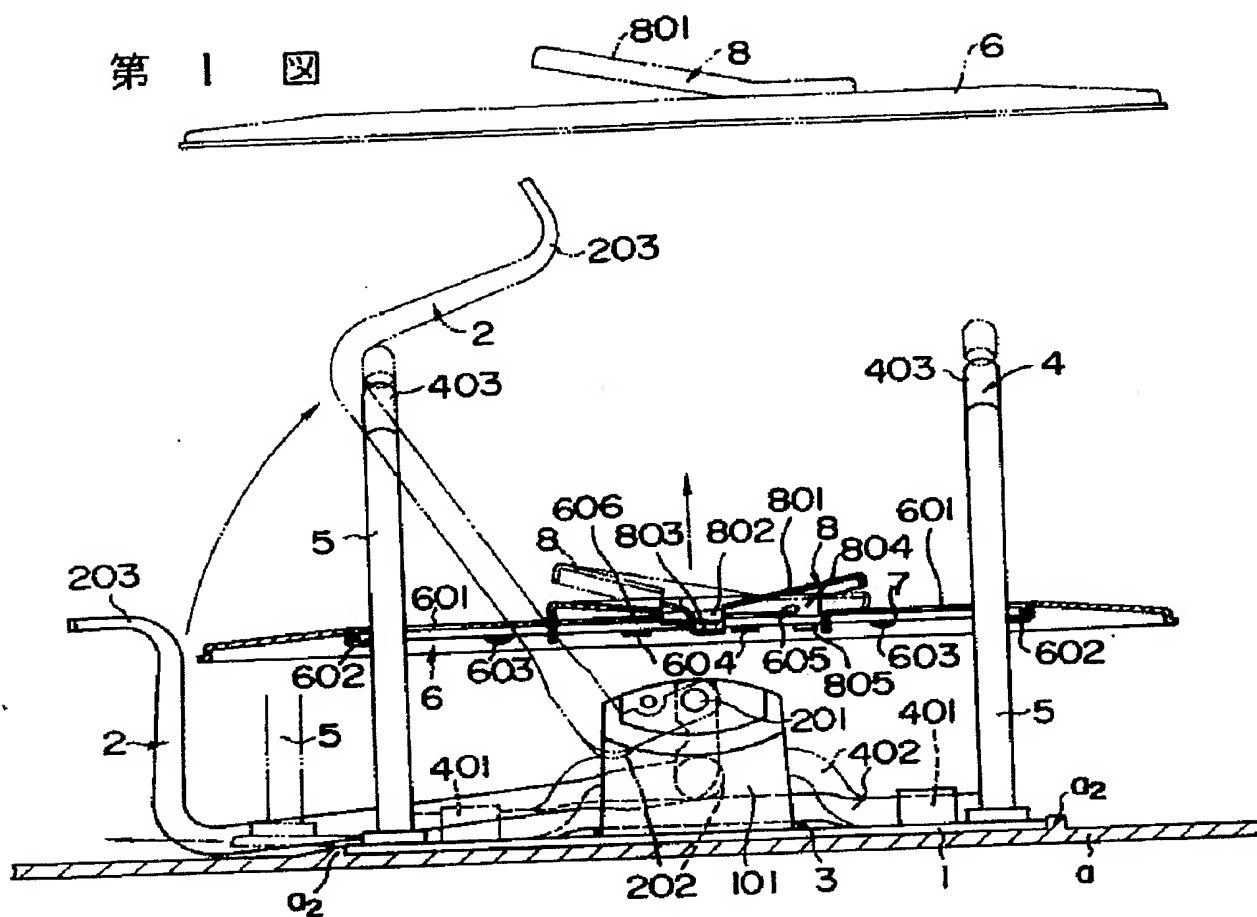
ゆえに、使用に便利で、綴込まれた被綴込物が簡単に抜ける惧れのないすぐれた綴込具を提供でき、所期の目的を達成できる。

#### 4. 図面の簡単な説明

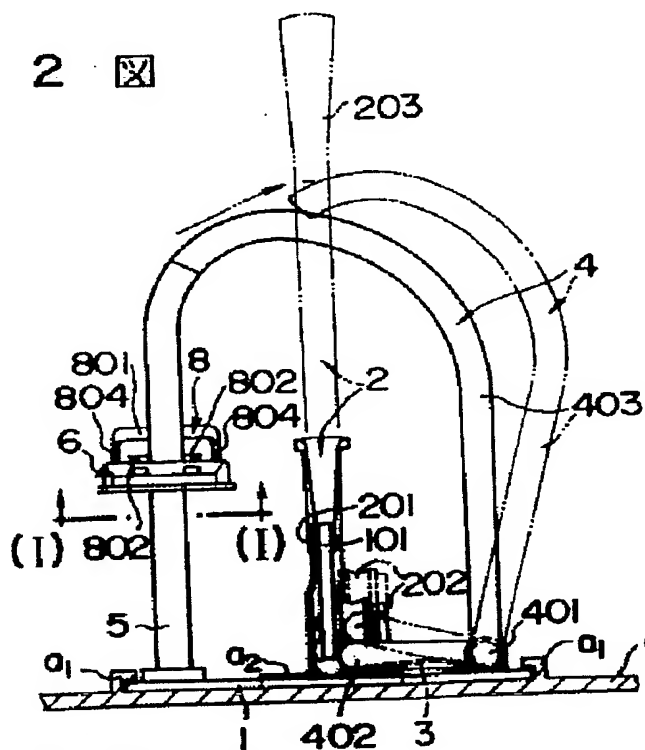
第1図は本考案綴込具の一部縦断正面図、第2図は側面図、第3図は平面図、第4図は第2図の(I)-(I)線による横断面図、第5図は綴板の基板に対する脱着操作説明図である。

図中、(a)は基板、(1)は綴板、(2)はてこ、(201)はてこの軸着部、(3)はばね、(4)は可動綴杆、(401)は可動綴杆の基部、(5)は不動綴杆、(6)は紙押板、(7)は複数本の弾条、(8)は操作子である。

第 1 図



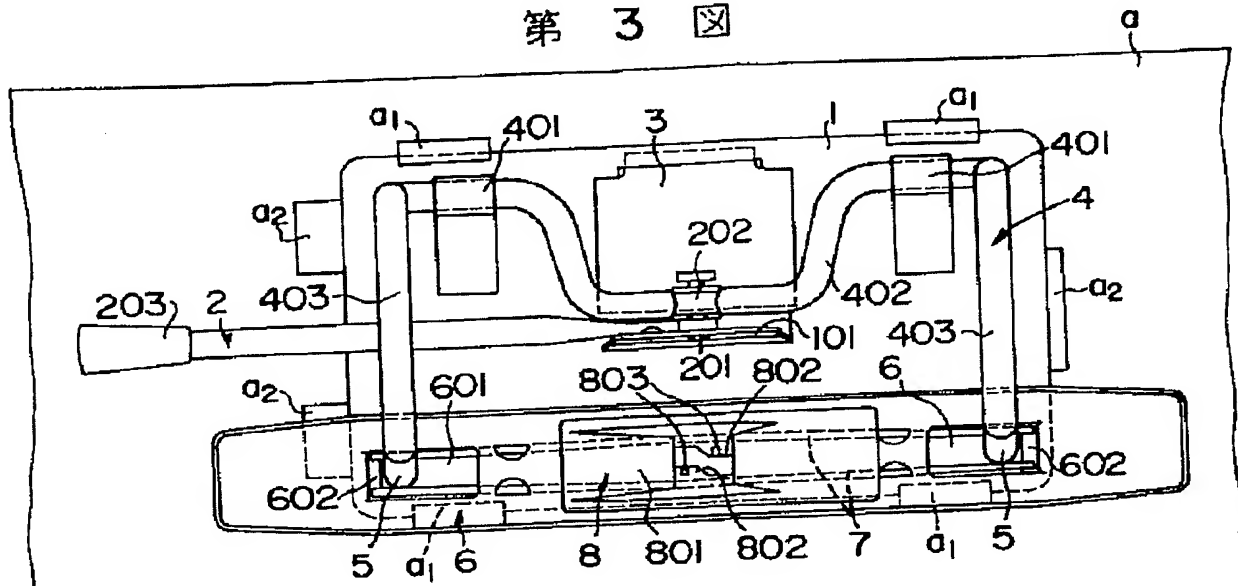
第 2 図



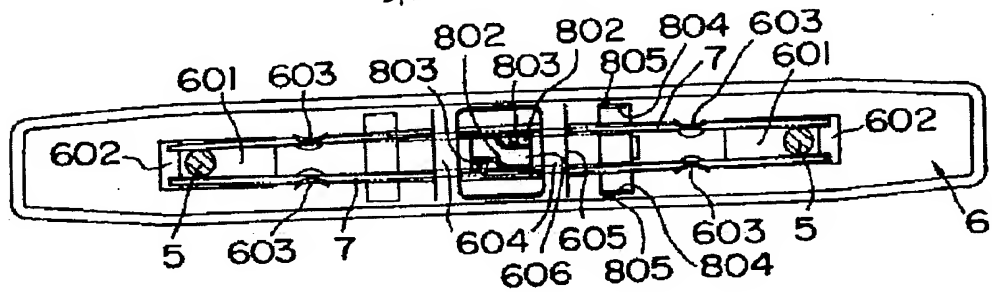
出願人 株式会社下木鉛筆  
代理人 早川政名  
外一名

24077 1/2

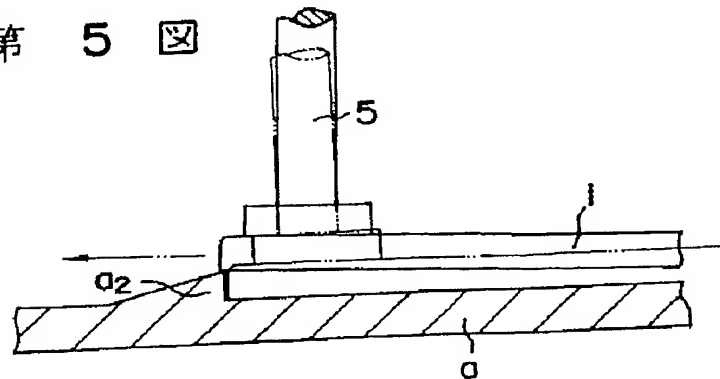
第 3 図



第 4 図



第 5 図



出願人 株式会社 トンボ鉛筆  
代理人 早 川 政 志  
外一志

6. 前記以外の考案者、実用新案登録出願人または代理人

(1) 考案者

(2) 実用新案登録出願人

(3) 代理人

住所 東京都文京区白山5丁目14番7号  
早川ビル 電話東京(940)0531番(代表)

氏名 (1629) 井理士 早 川 潔

240